抗議の輪に南相馬の男性

避難の沖縄から参加

「ストップ再稼働！」の紙を掲げ原発の正門前で抗議する四百人の輪に、東京電力福島第一原発事故で福島県南相馬市から沖縄県八重瀬町に避難している大橋文夕さん(ぎ)の姿があった。二度と福島と同じ苦しみに遭わせたくない」。海を渡り、一人で駆けつけた。（立石智保）

「再稼働やめろ！」「福島の現実を知っているのか」。午前十時半すぎ。テレビのニュース速報で再稼働が正門前に伝わると、大橋さんは声を張り上げ続けた。

◇

大橋さんは、東日本大震災の津波で自宅と三人の親戚を失った。自宅は福島第一から十一キロ。知人に促されるまま東京に避難し、二〇一一年五月に沖縄に渡った。

妻彩子さん(ぎ)=当時(ぎ)=は、福島県双葉町の特別養護老人ホームからヘリで避難した。しかし、原発事故の約一カ月後、ストレスからか胃から出血し、福島市の病院で息を引き取った。混乱の中、家族四人だけの葬儀をし、足早に遺骨を東京へ持ち帰った。「ばばちゃんをきちんとみとれなかった」と悔やむ。

いま、避難者が直面しているのは分断の苦しみだ。放射能や帰還への考え方、賠償の有無…。意見や境遇の違いで引き裂かれる家族や地域を目の当たりにしてきた。大橋さん自身、福島では仲良く一緒に暮らしていた長女(ぎ)や二人の孫、次女(ぎ)と離れ離れに暮らす。

「津波だけなら立ち直れたかも。原発事故で未来まで奪われた」。大手ゼネコンからの発注が入り始め、軌道に乗りつつあった建物を防水施工する仕事も失った。

沖縄では友人の誘いで、米軍普天間飛行場へのオスプレイの配備に反対する座り込みに参加した。すると、沖縄への基地の集中を知りながら、どこか人ごとにとらえていた自分に気がついた。「カネで地方に負担が押しつけられる構図は原発と同じだった」

大橋さんは、福島と近県の四千人が東電や国を相手取り、原状回復や生活再建を求める訴訟の原告団に加わっている。責任を認めさせるために一緒に闘うことが、分断ではなく、つながりを生むと思うからだ。

◇

原発の正門前で座り込んでいた参加者は「悔しい」「福島を忘れたのか」と、口々に九電を非難した。胸の前で手を合わせて涙を流す女性もいた。

しかし、抗議の叫びは届かず、正門に設けられたバリケードの向こうで、再稼働は粛々と進められた。

「理不尽なことには『ふざけるな』と言い続けよう」。大橋さんは、参加者と固く誓い合った。

「福島を忘れたのか」

川内原発の正門前で再稼働に反対する人たち＝11日、鹿児島県薩摩川内市で

中部9県 全て反対多数

中日ボイス

インターネットで、その時々の話題を尋ねる「中日ボイス」で、川内原発1号機の再稼働について尋ねたところ、七千六百八人から回答が寄せられ、反対が75・1%と、賛成の16・9%を大きく上回り、中部九県全てで反対が多数を占めた。

三重県の女性(ぎ)は、福島第一原発事故を踏まえ「未来を背負う小さな子どもたちの被ばく状態も不確かなうちに再稼働とは言語道断。事故の教訓が生かされていない」と嘆いた。愛知県の女性会社員(ぎ)も「原爆を落とされた唯一の国なのに、なぜ原子力に頼るのか」と疑問を呈した。女性は、男性よりも反対の割合が多く、八割を超えた。

※小数第2位を四捨五入

愛知県の男性会社員(ぎ)は「今夏は猛暑でエアコンをフル稼働させているが、電力は供給できている」と再稼働の必要性を否定。同県の無職男性(ぎ)は「放射性廃棄物の処理方法が定まっていないのに稼働するのは、子孫や地球上の生物に危険な負の遺産を残すことになる」と警鐘を鳴らした。

自宅近くに原発があるという静岡県の無職女性(ぎ)は「子どものころから見学にも行き、安全で便利な施設と思っていたが、震災を境に見方が変わった。今は存在自体が怖い」と答えた。石川県の無職男性(ぎ)も「原子力規制委員会は『安全』とは言っておらず、『基準に達している』と言っているだけ。使用済み核燃料の問題も未解決」と、再稼働には断固反対の姿勢を示した。

一方、原発を認める立場から、滋賀県の男性会社員(ぎ)は「原子力に代わるエネルギーの見通しが立たない中では、原発の稼働はやむを得ない。自然など代替エネルギーを速やかに構築する必要がある」と賛成を訴えた。

福井県の男性会社員(ぎ)は「気持ち的には反対だが、福井と同様に地元産業の発展になる部分もあるので、仕方がない。といいつつ、核のごみが解決していないので、見切り発車だと思う」と悩みながらも賛成と答えた。

岐阜県の男性会社員(ぎ)は「生活する上で必要なものとは理解できる。震災の影響が大きく、国民が不安を抱えているのも間違いない」と「分からない」を選んだ。

「見切り発車だ」

原発正門前に反対住民

川内原発1号機の再稼働に反対する住民らは十一日朝から原発正門前に集結した。警察が厳重に警備する中、「危険な原発はいらない」「見切り発車だ」と訴えた。一方、地元の商店街では「経済が活気づく」と歓迎する声が聞かれた。

強い日差しが照りつける正門前に集まった住民らは百人以上。一部は「ストップ再稼働」と書いた紙を掲げて座り込んだ。川内1号機が再稼働した午前十時半には「九電は再稼働やめろ！」「福島を忘れたのか」と大きな声を張り上げた。警察官約八十人は、隙間なく正門前に一列に並んで警備に当たった。

「残念としか言いようがないが、これからも反原発の声を上げていきたい」と話した。

再稼働前には正門近くに抗議の車五台が止まり、移動を促す警察官と一時にらみ合いとなった。門に近づこうとした女性が制止されるなど小競り合いも起きた。

北九州市から来たという大学四年東菜津美さん(ぎ)は「避難計画には弱者の視点が足りない。抗議活動に参加することで、再稼働反対の意思を示したい」と力を込めた。

JR川内駅近くの商店街にいた無職の男性(ぎ)は「ここは原発がないとだめだ。再稼働すれば国からお金も入ってきて町が潤う」と述べた。

居酒屋を経営する福山主馬さん(ぎ)は「原発が止まってから、客が来なくなり、早く店を閉めることもあった。事故の心配はゼロではないが、これを機に客を呼び戻したい」と語った。

福井市内でデモ

原発ゼロを求めるデモが十一日、福井市大手三丁目の市中央公園周辺であり、三十人余りが参加した。

川内原発1号機が再稼働され、参加者らは「危険な原発もうやめろ」などと声を上げて練り歩いた。

川内原発を擬人化したキャラクターが描かれたプラカードも。「オレ、マジで地震とかムリっスから」「火山の噴火も絶対ヤバイっス」などと安全基準に対する疑問が若者言葉でつづられた。川内原発近くでの再稼働反対集会に参加した奥出春行さん(ぎ)=福井市=は「国民の声を無視した再稼働で許すことができない。これからも各地の市民団体と手をつなぎ、反対を訴えていきたい」と話した。（上原梨花）

川内原発の再稼働反対などを訴える参加者たち＝11日、福井市で

事故ないこと祈る

再稼動差し止め仮処分 申立人の松田さん

関西電力高浜原発3、4号機（高浜町）の再稼働差し止め仮処分の申立人、松田正さん(ぎ)=坂井市=は「これだけ暑い日が続いても、電気は足りている。動かす理由が分からない」と批判。「残念だが、こうなった以上、事故がないことを祈るしかない」とため息をついた。

国民の過半数が反対する中での再稼働に「市民の間では、どんなに抵抗しても無理だというあきらめ感が漂うと思う」と懸念する松田さん。「それでも声は上げ続けないといけない。（差し止めを認めた）福井地裁の決定を支持する人が多ければ、原発を止められる可能性が出てくる」と決意を新たにした。

8/12 中日新聞